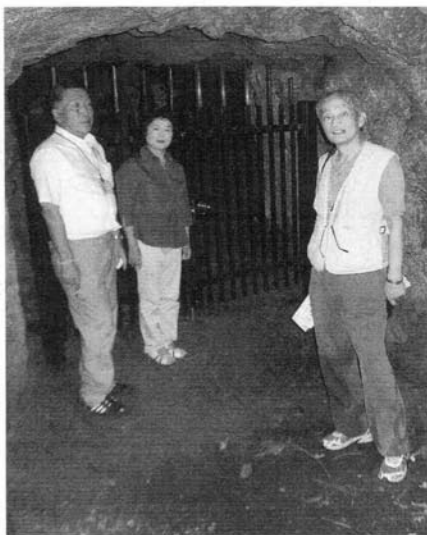


下仁田の近代史 埼玉の作家が執筆

中小坂鉄山 小説に



下仁田町の中小坂鉄山を舞台にした新作時代小説執筆のため、現地を訪ねた、たなかさん（右）

群馬にまつわる数々の時代小説を執筆している埼玉県上尾市在住の作家たなか踏基さん（70）が、下仁田町にあった中小坂鉄山を舞台にした新作「中小坂鑛蔵里鉄山秘聞（仮題）」に取り組んでいる。近代産業史で大きな役割を果たしながら、一般にほとんど知られていない鉄山に再び光を当てるのが狙いという。

来年刊行予定

見られ、良質な鉄鉱石が採れた。

たなかさんは、2001

掘されることから、幕末、群馬ともゆかりの深い幕臣、小栗上野介によって溶鉱炉建設予定地として建議もされた。維新後、明治7年（1874年）にイギリス人技師らによって洋式高炉が建設され、国内初の近代製鉄が開始されたといわれている。製鉄はその後、頓挫したが、鉄鉱石の採掘は断続的に戦後まで続けた。

執筆にあたり、今年2月、

訪ね、一般には立ち入りが

禁止されている坑道内にも町の許可を得て入った。極力、史実を尊重しているものの、幕府崩壊後、隠れ先の旧倉沢村（高崎市）で非業の最期を遂げた小栗上野介を随所に登場させている。近代製鉄の発祥の地は釜石（岩手県）とされ、中小坂が忘れ去られる過程が政治的謀略をまじえて描かれ、小説としての娯楽性にも配慮したという。

下仁田町は、世界的に珍しい地質や地形を持ち、今

月に入って、日本ジオパ

約2800。来年1月下

旬、幻冬舎ルネッサンスから出版予定。